

解答

- |    |      |
|----|------|
| 問一 | ① 自負 |
| 問二 | ② 容易 |
| 問三 | ③ 発展 |
| 問四 | ④ 疑念 |
| d  | ⑤ 観察 |

行動のうえの特色が多く、表情豊かでよく声を出して動き回るところ。

群れの中に可能な限り自然をみださないように配慮し、群れに入らず客観的に観察するという方法。

- 問九  
イ

- ① ひたい  
② けんこうじつ  
③ けはい  
④ もじく  
⑤ におい

ג

太郎が大胆に泥のなかへ入れるようになったので、周りに危険がないことを確認してから、自由にさせよう  
という意図。

I  
1

水のなかの生き物が自由自在

ア X イ X ウ X エ O 才 O

解  
說

- 問四** 傍線部Bの後でウサギの様子とは異なるとサルについて述べられています。ウサギは表情もなく声もほとんど出さず、行動のうえの特色も少ないと、表情豊かなサルの世界は、多様で豊潤であることを書き表します。「人の顔を覚えるのに、」で始まる段落で述べられてることは、選択肢イの内容と一致します。

- 問二 僕縁部Aの直前にある「おどろいたように」から、「あまりに意外だつた」という記述を含む選択肢Eが選べます。

泥がつくことをいやがついていた太郎が、だんだん大胆に泥のなかへふみこみ、ひとりで這いまわりはじめた頃に、ぼくが水たまりのないことをみとけ、もとのほどりへもどつたことから、太郎の様子と周りの状況を判断しひとりで自由に遊ばせようとする「ぼく」の意図について説明します。

一

1